第１節　地理的環境

(1) 玉東町の位置

玉東町は熊本県北部・玉名郡の東南端に位置し、東は熊本市（旧植木町）、西は玉名市、南は吉次峠、三の岳を経て熊本市（河内町）、玉名市（天水町）、北は和水町、山鹿市（鹿央町）に接している。

町域は東西約４㎞、南北約９㎞で南北に長く、総面積は24.33㎢である。町の中心部には国道208号と JR 九州鹿児島本線が東西方向に並行して走る。

江戸時代には熊本城を起点とする豊前街道の脇往還である三池往還が町の北側を、吉次往還が町の南側を東西方向に通り、古来より往来が盛んであった。これらの往還は玉名高瀬で合流し、さらに三池（福岡県）へとつながっている。高瀬は菊池川や大浜の港を利用した水運で栄えたところであり、玉東町は熊本と高瀬を結ぶ地域として交通の要衝にあったといえる。

(2) 玉東町の地形・地質

玉東町の自然地形は、極めて変化に富んでおり、北部には木葉山（286m）、国見山（389m）を主峰として山々が反り立ち、南に金峰山系の三ノ岳（681.3m）から丘陵地がゆるやかに広がる。南北の山地・丘陵地には浸食による谷が発達し中央の低地に連なる。また、この南北の山に挟まれるように菊池川の支流である木葉川が西に向かって流れている。また、木葉川の支流として北部山地から浦田川、南部丘陵地から白木川が流下し、木葉川に合流している。

中央低地の地質は主に第四紀の沖積層と火山噴出物である阿蘇火砕流堆積物等より形成される。北部山地は変成岩類から成り、石灰岩（結晶質石灰岩または大理石）を産出する。南部丘陵地及び山地は、第三紀から第四紀に形成された金峰火山の外輪山で主に安山岩より成る。

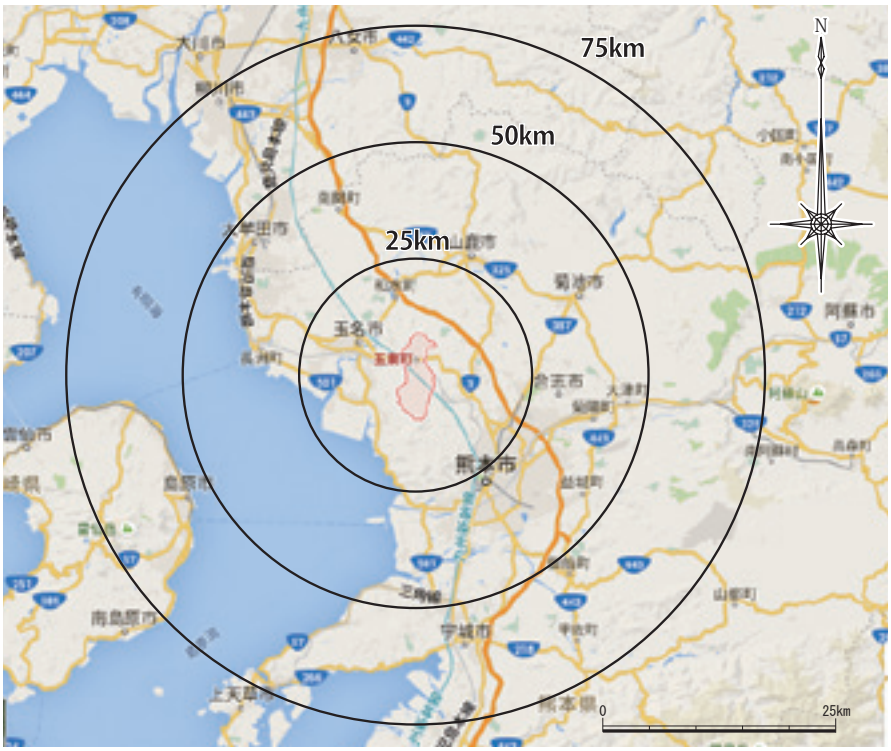


図２ 玉東町の位置図

第２節　自然的環境

(1) 玉東町の気候

玉東町周辺の平成25(2013)年度の年間平均気温は摂氏17.0度で、夏季（７～８月）は暑く、最高気温は36.6度。冬季（12～２月）は最低を示し、最低気温は-3.5度で周辺と比べても厳しく、内陸型というより山地型の特色を示している。年間平均降水量は117ミリである。

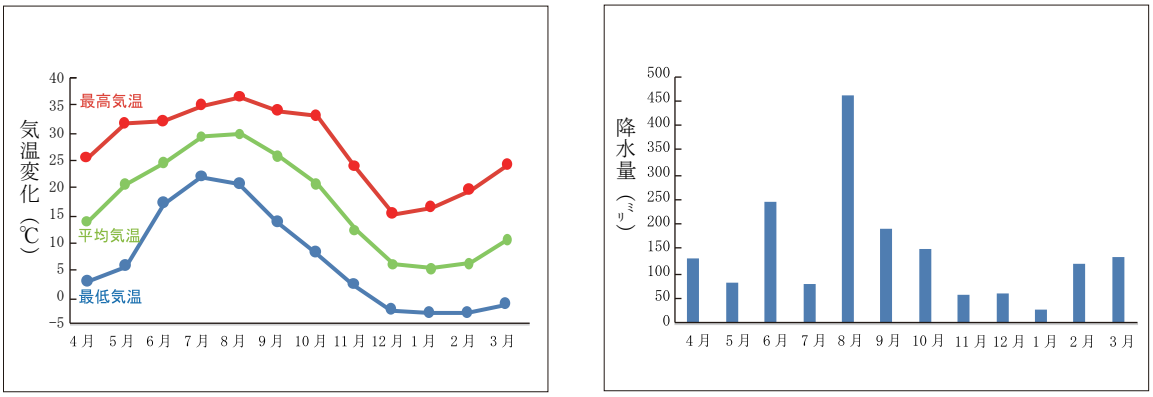


図３ 玉名地域の降水量と月平均気温（平成25年度気象庁データ 観測地：岱明）

(2) 玉東町の生態系

玉東町の地域の自然植生は、南北にスギ・ヒノキが群集しており、北西にはアラカシ・ナンテンの群落がある。玉東町全体にこの地域の里山で見られる、シイ・カシ萌芽林が点在している。また、三ノ岳斜面の上部には植林が行われ、その下部には果樹園が形成されている。(別稿参考資料１)

哺乳類では、イノシシやキツネ等の中型哺乳類がわずかに生息し、ニホンザルの生息も確認されている。鳥類では、木葉山付近でアオバトが観察されており、サンショウクイが初夏にみられる。南部の三ノ岳斜面ではホオジロやヒヨドリ、ヨタカが生息していることが確認されている。

第３節　社会的環境

(1) 地域の成り立ち

現在の玉東町は、昭和42(1967)年より始まる。明治22(1889)年に、木葉・上木葉・山口・稲佐・浦田・上白木・白木・二俣・西安・原倉の各村が合併し、玉名郡山北村、木葉村となった。また、昭和30(1955)年に玉名郡山北村、木葉村が合併して玉名郡の東に位置する「玉東村」となり、昭和42(1967)年４月１日に町制施行により現在の玉東町となった。

地域の名については、安貞３(1229)年の相良家文書に「山北」の名前がみられるのが初見であり、その他中世文書（「阿曽社年中神事次第写（断簡）」）中に「木葉」「山北」「稲佐」の名が認められており、太閤検地の慶長13(1604)年には上記10村が形成されていたことが分かっている。慶長年間に手永制が採用されると、内田手永（木葉町・上木葉・山口・稲佐・浦田)、小田手永（上白木・白木・二俣・西安寺・原倉）となり、明治維新後の地方の制度改革においては、明治３(1870)年８月に内田郷、小田郷と改められた。また、さらに明治４(1871)年には戸籍法公布に併せ大小区制が導入されると、第20大区10小区、第21大区１小区となり、明治７年には第７大区４小区、第７大区５小区に属することとなる。

表１ 玉東地域（周辺を含む）地方行政組織の変遷

旧　村　名	大小区制（明治５年）	合区の変遷（明治６年）	大小区制（明治７年）
北坂門田村	第二〇大区		第七大区
南坂門田村	九小区		四小区
中坂門田村		坂門田組	
青　野　村			白木組
田　崎　村			
上白木村	第二〇大区	白木組	
白　木　村	一〇小区		
二　俣　村			
原　倉　村		原倉組	
西安寺村			
木　葉　村	第二一大区		第七大区
上木葉村	一小区		五小区
稲　佐　村		木葉組	安楽寺組
浦　田　村			
山　口　村			
安楽寺村	第二一大区		
津　留　村	二小区	安楽寺組	
下　　村			

〈備考〉　現玉東町所属村は着色部分10カ村。
熊本県総務部地方課『熊本県市町村合併史』より作成。

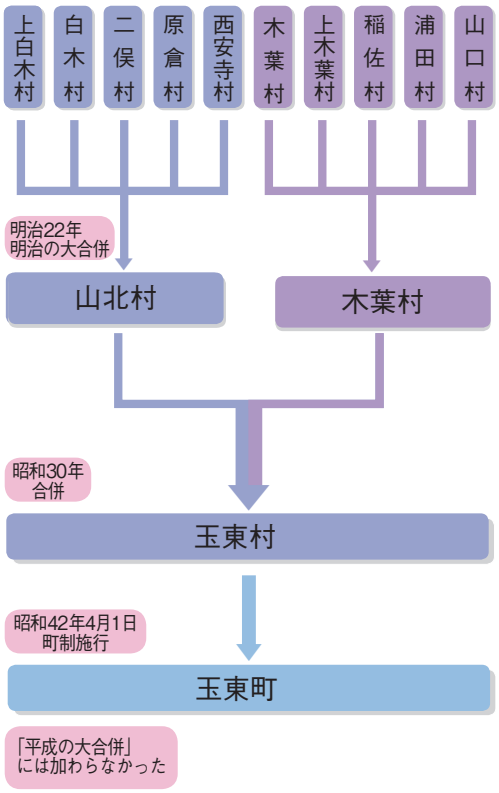


図４ 玉東町の市町村合併図

(2) 人口

玉東町の人口は、平成27(2015)年12月31日現在で、5,463人である。世帯数は1,985世帯、一世帯当たりの構成は2.75人となっている。

昭和50年～平成26(1975～2014)年の39年間で人口はゆるやかな減少がみられるのに対し、世帯数は増え、一世帯当たりの人口は減少し、核家族が増えていると推測される。

自然・社会の人口の推移をみると、自然増（出生・死亡）での人口は減少しているが、社会増（転入・転出）では平成20～22(2008～2010)年にかけて増加している。これは平成21(2009)年から始まったオレンジタウンなどの住宅開発に伴うものだと考えられる。

平成22(2010)年度の国勢調査をみると、15歳未満（年少人口）は全体の13.0%、15～64歳（生産年齢人口）は全体の56.5%、65歳以上（老齢人口）は全体の30.5%となっている。

65歳以上（老齢人口）に関しては、熊本県の老齢人口25.6%を上回っており、年齢層（３区分）別人口割合表からもみてとれるように、年々15～64歳（生産年齢人口）は減少しているため、今後さらに高齢化が進むことが予想される。

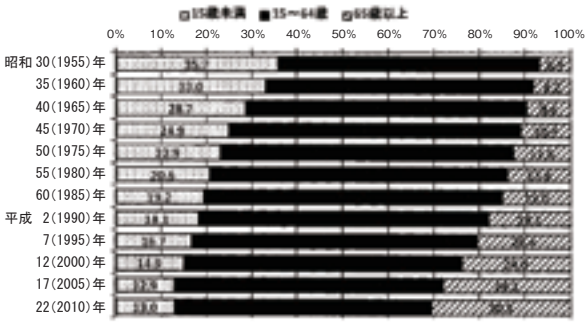


図５ 年齢層（３区分）別人口割合

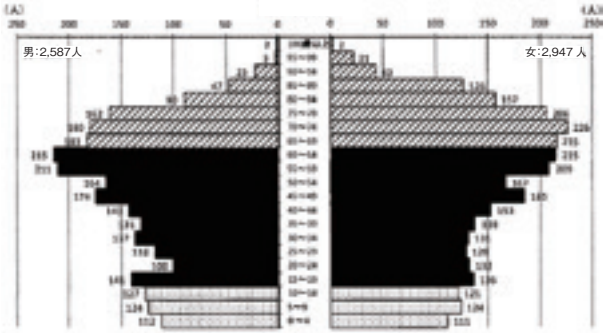


図６ 年齢階層別人口　平成22年度国勢調査より

(3) 産業

玉東町の就業者数は、農業、サービス業が多く、次いで、製造業、卸売・小売業となっている。平成７～22(1995～2010)年の玉東町の15歳以上の就業者の産業構成をみると、いずれも就業者数は減少している。但し、卸売り・小売業は平成17～22(1995～2010)年にかけて増加している。平成17(1995)年まではサービス産業は増加傾向にあったが、平成22(2010)年には減少している。サービス産業の中では、医療・福祉分野が10.0%を超え、最も多い。

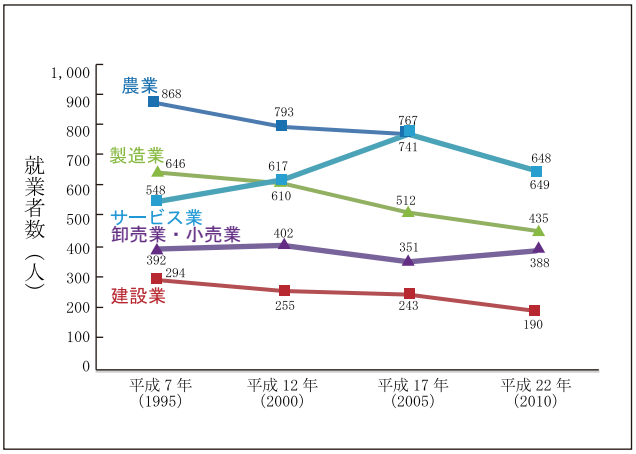


図７ 主要産業の就業者数

表２ 業種別就業者数(率)

	平成７(1995)年		平成12(2000)年		平成17(2005)年		平成22(2010)年	
	総数	%	総数	%	総数	%	総数	%
総数	2,748	100.0	2,995	100.0	2,880	100.0	2,585	100.0
農業	868	31.6	793	26.5	741	25.7	649	25.1
林業	－	－	4	0.1	2	0.1	4	0.2
漁業	－	－	－	－	1	0.0	－	－
鉱業	－	－	34	1.1	4	0.1	5	0.2
建設業	294	10.7	255	8.5	243	8.4	190	7.4
製造業	646	23.5	610	20.4	512	17.8	435	16.8
電気・ガス・熱供給・水道業	－	－	1	0.0	7	0.2	4	0.2
情報通信業	－	－	126	4.2	8	0.3	10	0.4
運輸業	－	－			97	3.4	96	3.7
卸売業・小売業	392	14.3	402	13.4	351	12.2	388	15.0
金融・保険業	－	－	41	1.4	28	1.0	31	1.2
不動産業	－	－	5	0.2	6	0.2	10	0.4
サービス業	548	19.9	617	20.6	767	26.6	648	25.1
飲食店、宿泊業	－	－	－	－	70	2.4	75	2.9
医療、福祉	－	－	－	－	311	10.8	351	13.6
教育、学習支援業	－	－	－	－	88	3.1	85	3.3
複合サービス事業	－	－	－	－	41	1.4	28	1.1
サービス業（他に分類されないもの）	－	－	－	－	257	8.9	109	4.2
公務（他に分類されないもの）	－	－	107	3.6	112	3.9	115	4.4
分類不能の産業	－	－	－	－	1	0.0	－	－

(4) 通勤通学流動

国勢調査結果で見ると、平成17(2005)年に15歳以上の玉東町住民で就業・通学していた人は3,186人。そのうち町内で就業・通学しているのは、1,478人（47.9%）で、就業・通学者の半数以上が他市町に流出している。熊本市（旧熊本市、植木町）が692人。玉名市（旧玉名市、岱明町、横島町、天水町）が615人と多い。

他市町から玉東町に就業・通学している人は、638人で、玉名市からは338人、熊本市からは167人となっている。

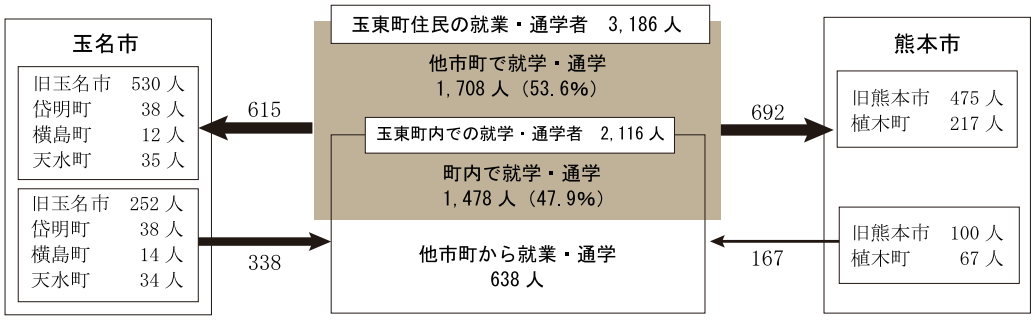


図 8 通勤通学の状況

(5) 土地利用

玉東町の総面積は、1,960ha であり（平成23(2011)年度)、地目別の土地面積をみると、その内、畑が約44%、山林が約36%を占めている。平成20～23(2000～2011)年にかけて、各地目別土地面積に大きな変動は見られない。

表 3 地目別土地面積

単位：ha

	平成20(2008)年		平成21(2009)年		平成22(2010)年		平成23(2011)年	
	玉東町	熊本県	玉東町	熊本県	玉東町	熊本県	玉東町	熊本県
総数	1,963	348,804	1,962	347,865	1,961	350,547	1,960	351,401
田	206	71,767	205	71,528	204	71,358	205	71,190
一般田	206	71,441	205	71,226	204	71,073	204	70,945
介在畑市街化区域田	0	326	0	302	0	284	0	245
畑	864	59,180	862	58,820	861	58,688	861	58,549
一般畑	864	58,414	862	58,096	861	58,003	861	57,894
介在畑市街化区域畑	0	767	0	725	0	685	0	655
宅地	137	30,977	137	31,209	138	31,476	138	31,762
鉱泉地	－	0	－	0	0	0	0	0
池沼	0	345	0	346	0	343	0	339
山林	700	152,794	700	153,002	701	155,948	702	156,945
一般山林	700	152,488	700	152,706	701	155,659	702	156,662
介在山林	－	306	－	296	0	289	0	283
牧場	－	219	5	223	0	223	0	228
原野	5	24,331	52	23,487	5	23,129	5	22,933
雑種地	50	9,190	－	9,249	51	9,382	49	9,455

単位：%

	平成20(2008)年		平成21(2009)年		平成22(2010)年		平成23(2011)年	
	玉東町	熊本県	玉東町	熊本県	玉東町	熊本県	玉東町	熊本県
総数	100	100	100	100	100	100	100	100
田	10.5	20.6	10.4	21.4	10.4	20.4	10.4	20.3
一般田	10.5	20.5	10.4	20.5	10.4	20.3	10.4	20.2
介在畑市街化区域田	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1
畑	44	17	43.9	16.9	43.9	16.7	43.9	16.7
一般畑	44	16.7	43.9	16.7	43.9	16.5	43.9	16.5
介在畑市街化区域畑	0.0	0.2	0.0	0.2	0.0	0.2	0.0	0.2
宅地	7	8.9	7.0	9.0	7.0	9.0	7.0	9.0
鉱泉地	－	0.0	－	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
池沼	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1
山林	35.7	43.8	35.7	44	35.7	44.5	35.8	44.7
一般山林	35.7	43.7	35.7	43.9	35.7	44.4	35.8	44.6
介在山林	－	0.1	－	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1
牧場	－	0.1	－	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1
原野	0.3	7.0	0.3	6.8	0.3	6.6	0.3	6.5
雑種地	2.5	2.6	2.6	2.7	2.6	2.7	2.5	2.7

(6) 住宅地

玉東町は、開発事業に伴う良好な住宅市街地を誘導するため、行政区域の一部、７ha が準都市計画区域に指定されている（平成16(2004)年５月10日指定)。

住居系の第２種低層住居専用地域が全体の約71％を占めており、残りが第１種中高層住居専用地域、第１種住居地域がそれぞれ約14％となっている。

(7) 農業振興地域・農用地区域

農業振興地域として、用途地域及び森林区域を除いた区域、2,998ha が指定（予定）されている。そのうちの1,022ha が農用地区域に指定（予定）されている。

玉東町の大半が農用地区域に指定されており、地目別土地面積、植生図から見てとれるように、面積の44％が畑となっており、南部に集中して果樹園が広がっている。

表４ 農業振興地域・農用地区域指定状況

地域・区域	面積(ha)
農業振興地域	2,298
農用地区域	1,022

・数値は「熊本県農業振興地域整備基本方針平成22(2010)年12月変更」で農業振興地域として指定することを相当するものであり、あくまでも予定である。
・資料：熊本県農業振興地域整備基本方針 平成22(2010)年12月変更

図９ 玉東町稲刈りの様子

(8) 森林域・国林・民有林・保安林

玉東町では、私有林が現況森林面積の約82％を占めており、国有林（林野庁所管)、民有林（公有林）がそれぞれ約９％となっている。

また、アラカシ・ナンテン群集やスギ・ヒノキが植林されている木葉山、国見山がある町の北部、金峰山県立自然公園がある南部は、森林地域に指定されており、一部が保安林にも指定されている。

表５ 森林地域、民有林、保有林の指定状況

区分			面積(ha)
現況森林面積	国有林	林野庁所管	70
		その他の官庁	－
	民有林	独立行政法人等	－
		公有林	67
		私有林	627
	合計		764
森林計画による森林面積	固有		68
	民有		694
	合計		762

・資料：農林水産省2010年世界農林サンセス

図10 スギ・ヒノキの群集

(9) 自然公園地域（県立自然公園）

玉東町における自然公園地域には、金峰山県立自然公園がある。金峰山県立自然公園の面積は7,319ha、内、特別地域地として玉名市、玉東町で1,460ha が指定されている。

金峰山は標高約665mであり、一ノ岳とも呼ばれ、二ノ岳、三ノ岳をはじめとする外輪山に囲まれたカルデラ内にできた溶岩ドームである。四角の升形をしているのが特徴である。昔は飽田山といわれていたが、平安時代に金峰山権現を祀ってからは金峰山（きんぽうさん）と呼ぶようになったという。南北朝時代には菊池武重も再興に力を注いだ。昭和30(1955)年４月１日に金峰山県立自然公園に指定されている。

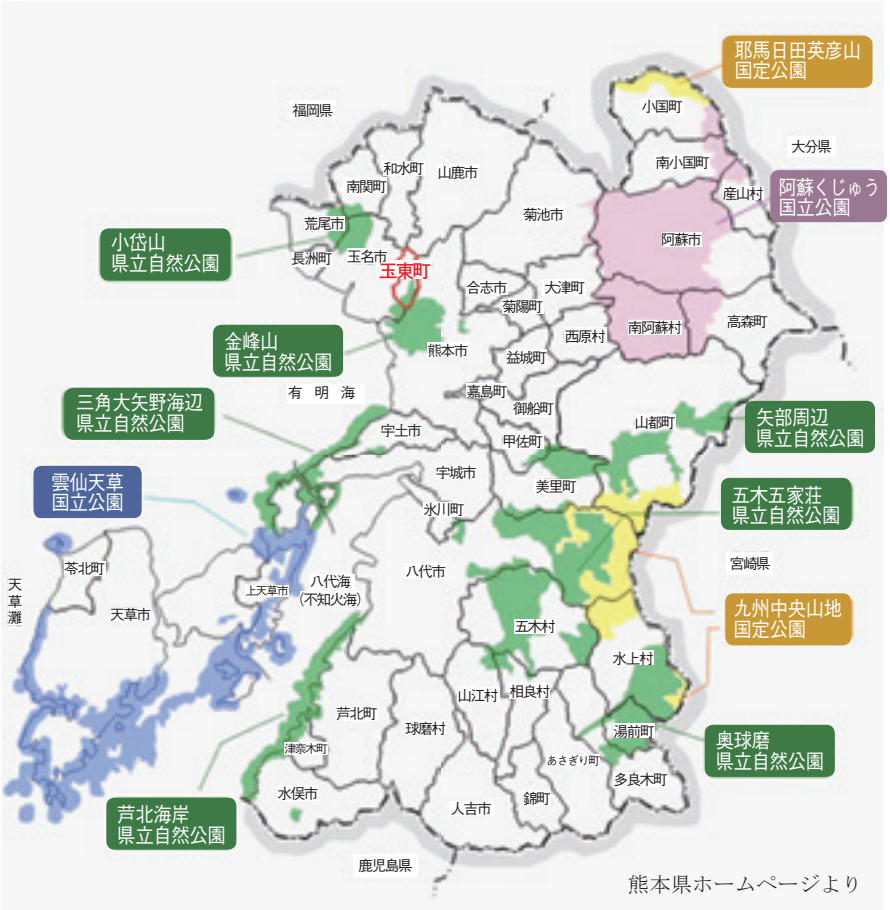
玉東町にかかる金峰山は、南から北に向かって緩やかな傾斜を成した安山岩植上壌土で、みかん栽培に適した環境にあり、熊本市、旧天水町、玉東町と連なる金峰山オレンジベルト地帯と言える一大産地を形成している。

史跡西南戦争遺跡の内、半高山・吉次峠戦跡、横平山戦跡が自然公園地域内に位置している。

表６ 自然公園の状況

名　称	公園面積(ha)	特別地域(ha)
金峰山県立自然公園	7.319	1.46

・資料：県自然保護課



熊本県ホームページより

図11 熊本県内の自然公園区域図

(10) 道路・交通

① 鉄道

玉東町の北西から南東にかけて九州新幹線や JR 九州鹿児島本線（在来線）が通っている。町の中心部に在来線が通る木葉駅があり、町の玄関口となっているが、平成23(2011)年に開通した九州新幹線新玉名駅との連絡は、バスや乗用車を利用する必要がある。

② 主要道路

JR 九州鹿児島本線と並行するように、国道208号が町の中心部である木葉地区を東西に通っており、熊本から玉名・荒尾方向を結ぶ道路として交通量が多い。高速道路は通っておらず、最寄りインターは植木 IC（木葉から車で20分程度）、和水 IC（木葉から車で20分程度）である。

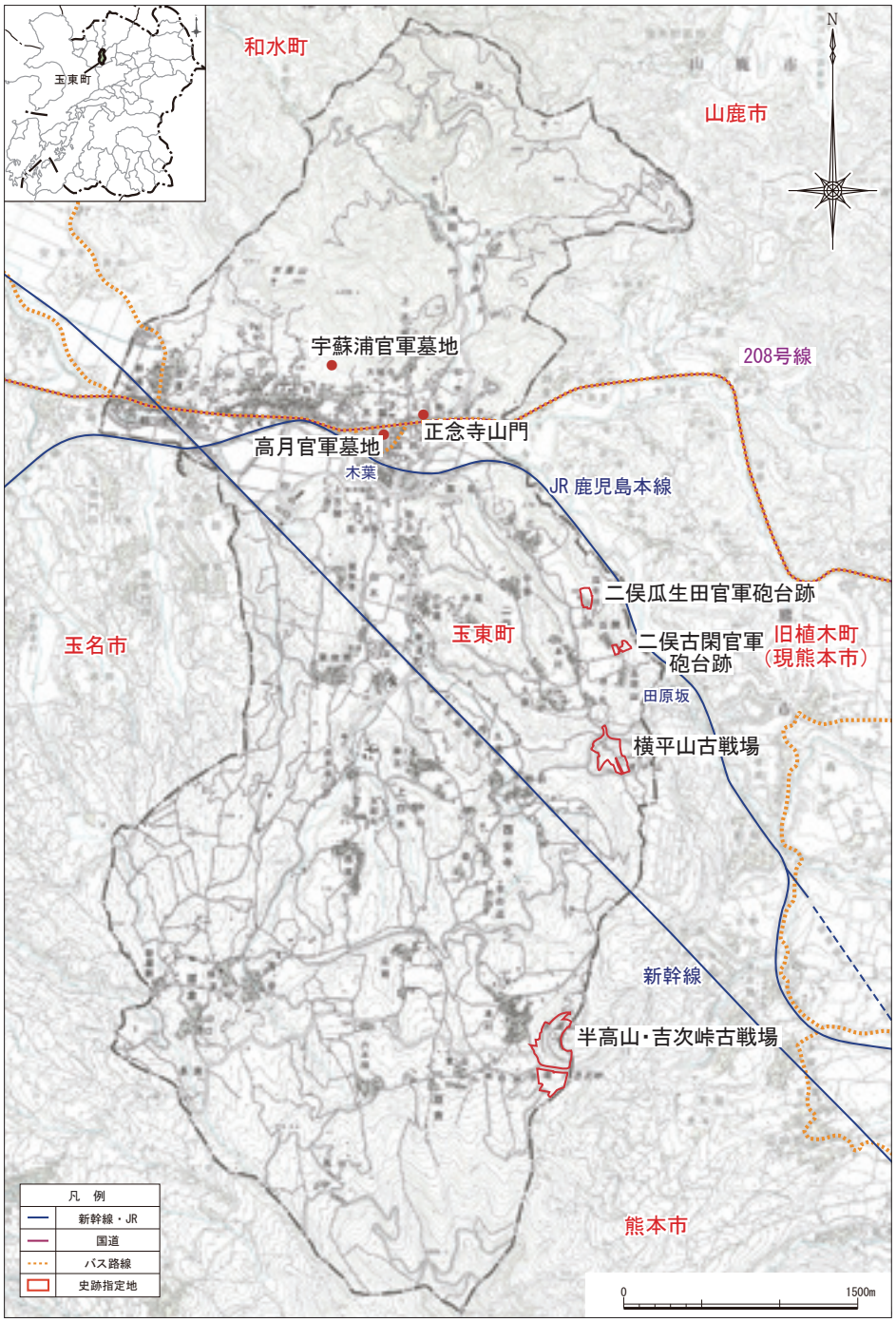


図12 道路・交通状況

（11）観光・レクリエーション

玉東町では、現在、JR 木葉駅前（北口）において町の顔（シンボル）となる賑わいの拠点整備（駅前再開発）を進めている。その中で、駅に併設する「ふれあい交流館」を史跡に関するガイダンス施設として利用する計画がある。

町民保養施設としては、「ふれあいの丘交流センター」があり、入浴施設や地元物産品が購入できる販売所も併設している。その他、町民の憩いの場となっている公園は、史跡内のものも含め、11箇所ある。

史跡と関連する観光・レクリエーション施設として、九州自然歩道が挙げられる。九州自然歩道とは福岡県の北九州国定公園皿倉山を出発点として南下し、英彦山で東西に分かれ九州各県を一周する自然歩道である。日帰り利用を念頭に九州圏域の利用しやすい興味地点をつなぐ九州本土全県を巡る地域周回型の路線で、路線延長は約2,900㎞、昭和50(1975)年度に整備が開始され昭和55(1980)年度に全線開通した。

熊本県内では主に金峰山（熊本市)、田原坂（熊本市)、鞠智城跡（菊池市・山鹿市)、菊池渓谷(菊池市)、根子岳（阿蘇市、高森町)、通潤橋（山都町)、五家荘（八代市)、人吉城跡（人吉市)、鹿目滝（人吉市)、天草松島（上天草市)、三角西港（宇城市）の名勝・旧跡を通っている。玉東町内では木葉駅を起点として南東に延び、金峰山麓、河内町野出に至る総延長21㎞の史跡探勝コースがある。

イベント・行事は町内者向けのものが多いが、近年、町外者を対象として、特産品のハニーローザ（スモモ）の PR を行う「ハニーローザ収穫祭」が開催されている。この他、秋には「西南戦争遺跡めぐりウォーキング」が開催され、史跡西南戦争遺跡及び関連遺跡をめぐるウォーキングが行われている。また、毎年３月には「西南之役剣道大会」、「西南之役鎮魂祭　博愛灯会」が開催される。

表７ 玉東町内公園一覧

公園名	場　所	概　　要
吉次公園	玉東町原倉字荒強当	西南戦争で最も激しい戦争が行われた場所のひとつで、西郷軍防衛線最後の牙城となった地。
半高山公園	玉東町原倉字半高	吉次峠に隣接する標高294ｍの山で、西郷郡軍の防衛線があった。近くの木留（植木町）には西郷軍の本営があり、吉次峠と一体になった激戦地。
横平山公園	玉東町二俣字峠	田原坂・吉次峠と並ぶ三大激戦地跡で戦術的に重要であったところから政府軍・西郷軍両軍の激しい争奪戦が行われた。
有栖川宮督戦阯広場	玉東町木葉字丸田	西南戦争の田原坂攻略戦において、政府軍征討総督有栖川宮熾仁親王が陣頭指揮をされた地。ツツジや桜の花が美しく、訪れる人が多い。
高月児童公園	玉東町木葉字高月	高月官軍墓地と隣接しており、地域住民の憩いの場となっている。
駅前公園	玉東町木葉字高月	駅近くにあり、主に駐車場となっている。藤が植えられて、休憩できるようになっている。
陣内公園	玉東町木葉字陣内	玉東町稲佐地区のニュータウンの中にある、地元住民の親睦の場。
稲佐六反田児童公園	玉東町稲佐字六反田	
年の神水源公園	玉東町上白木	年の神水源の公園化により整備され、熊本名水100選に選ばれた湧水公園。JR 木葉駅から３㎞程の所にある。
土生野フラワーパーク	玉東町木葉字土生野原	熊本方面からの玉東町の顔として、木葉猿をモチーフにしたモニュメントが置かれ、季節の花が彩られている。また、夜になるとライトアップされる。
ひがし公園	玉東町上木葉土生野	町役場横に設置された公園で小・中学生や地域住民の憩いの場となっている。

表８ 玉東町内神社仏閣一覧

区分	名　称	概　　要
神社	稲佐熊野座神社	神社には、平安時代の作と伝わる木造女神坐像が安置されている。
	宇都宮神社	古い伝えによると、養老７(723)年に藤原氏の氏上である大和国春日神社に祭神を勧請して、木葉に春日大明神が創建された。縁結び神社。
	山北八幡宮	山北地区の守り神として地区の人々が集まり、神幸行列や相撲、馬追い神楽等が奉納され、五穀豊穣を感謝する神事が執り行われる。
	霊雨山神社	木葉山の頂上に位置し、鳥居の登山口からは約30分。
	浦田天神社	
	宮地嶽神社	
	猪鼻神社	
	白山宮	勧請してから800年になり、明治40(1907)年２月に旧山北村の村社に昇格。昭和54(1979)年に創建750年の祭典が行われた。
	中野神社	
寺院	正念寺	山号を霊雨山と称し、天正年間に開闢された浄土真宗の寺院。西南戦争で、大繃帯所（救護所）として使われた。
	興隆寺	高月官軍墓地に隣接する。
	徳成寺	慶長２(1597)年創立とされる浄土真宗本願寺派の寺院で、阿弥陀仏如来を本尊としている。西南戦争時には正念寺同様繃帯所として使われていたと考えられる。

表９ 玉東町の主なイベント等一覧

イベント名	開催時期	概　要	備　考
ハニーローザ収穫祭 in 玉東町	６月中旬	旬が短いハニーローザの青果を味わってもらう収穫祭。毎回300名を超える応募がある人気イベントである。	熊本県の推奨品種である、スモモの一種ハニーローザは高い糖度をもつが、旬はとても短く希少品種。玉東町が日本一の栽培面積を誇る。
ふれあい祭り	８月中旬	地域づくりを目的に開催する夏祭り。	
西南戦争遺跡めぐり 歴史絵巻ウォーキング	10月～11月	町内西南戦争遺跡を歩いてめぐるイベント。平成21(2009)年から実施し、近年では JR 九州玉名駅が実施する JR ウォーキングのコースの一つとして実施。	
山北八幡宮大祭	11月19日、２月19日	神幸行列をはじめ、相撲や馬追、神楽等が奉納され、五穀豊穣を感謝する神事が行われる。	
西安寺神楽	11月９日、１月９日（西安寺白山宮） 11月19日、２月19日（山北八幡宮）	以前は神官によって奉納されていた西安寺神楽だが、現在は昭和53(1978)年に結成された西安寺神楽保存会が西安寺白山宮、山北八幡宮で神楽を奉納している。	
玉東町西南の役慰霊祭 西南の役剣道大会	３月21日	町内外小中学生による剣道大会。昭和41(1966)年に西南戦争の慰霊と剣道振興を目的に始められた。	
西南之役鎮魂祭 博愛灯会（はくあいとうえ）	３月下旬	平成25(2013)年３月に西南戦争遺跡が国史跡に指定されたのをきっかけに、西南戦争戦没者の慰霊を目的に始まった。	町内有志が作成した竹灯篭と町内小中学生が作成したと灯篭が並ぶ。

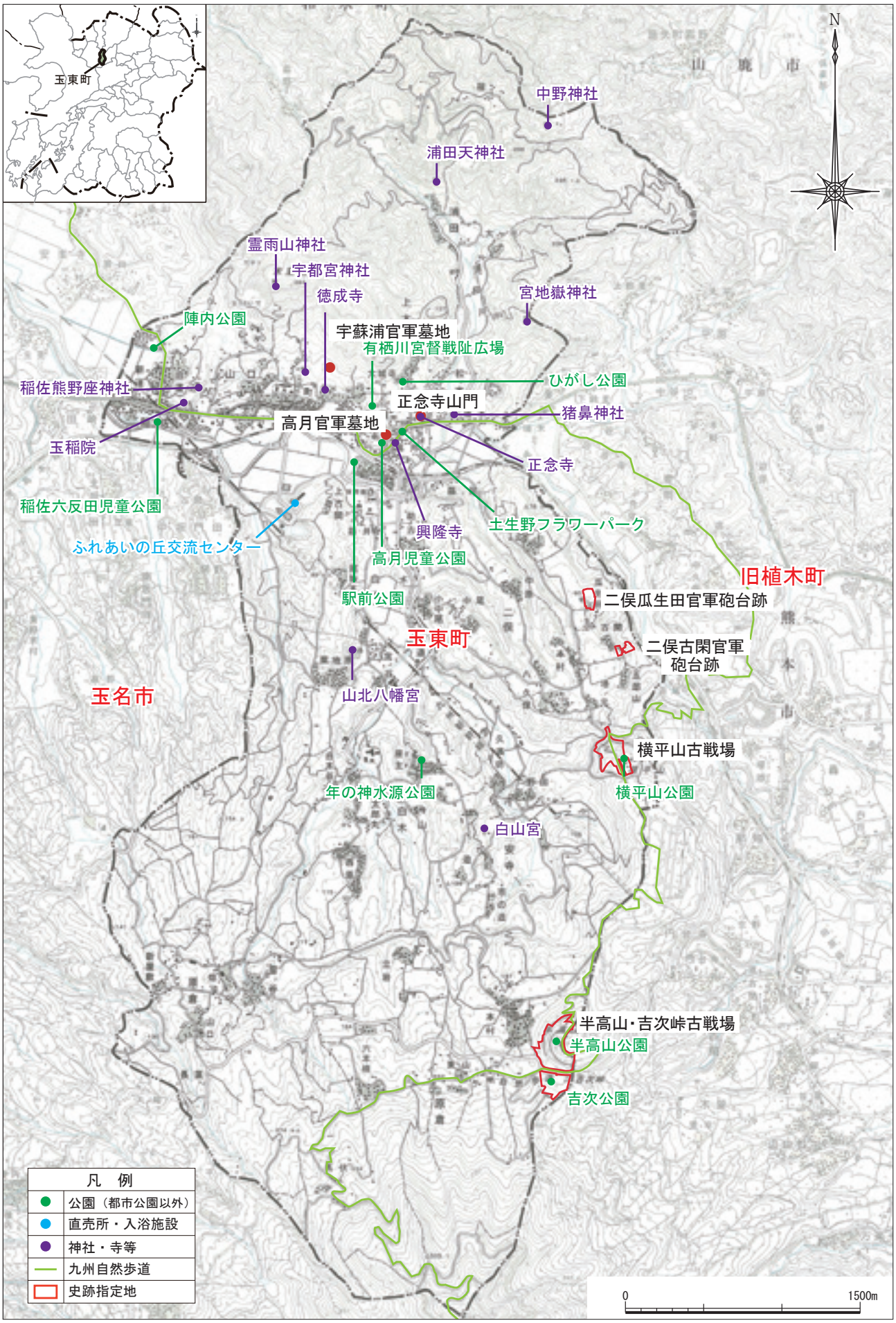


図13 玉東町の観光・レクリエーション施設

第４節　歴史的環境

町には旧石器時代の遺跡は確認されておらず、縄文時代以降の数多くの遺跡が存在する。以下時代ごとに主要な遺跡を紹介しながら町の歴史的環境について概要を述べる。

(1) 縄文時代

三ノ岳中腹の原倉地区では、立岩、大谷の石器製作址が遺物の表面採集によって確認されている。三ノ岳は前述のとおり安山岩を主体とした山であり、それを利用した石斧等が採集されているが、いずれも未調査であるため詳細は不明である。その他、原倉の東山遺跡で押型文土器など早期から晩期の土器が採集され、町の東側に位置する二俣台地上においても石鏃や敲石等が採集されている。

(2) 弥生時代

町の北側の天神山古墳の周辺や町の南側の東山遺跡の周辺において弥生時代後期の遺物が採集確認されている。また、平成16(2004)年から17(2005)年度の九州新幹線建設工事に伴い発掘調査された稲佐津留遺跡では稲佐地区の台地の南西側平野にて弥生時代後期の銅鏡や巴形銅器が出土している。

(3) 古墳時代

町の中央を流れる白木川を中心に２基の古墳と石棺群が確認されている。上古閑古墳は台地の先端部に築かれた円墳で、主体部は大型の箱形石棺である。盗掘を受けているため、副葬品は不明であるが、石棺の構造から５世紀のものと思われている。天神山古墳は、低地に築かれた円墳で箱形石棺を主体部とする。上古閑古墳に後続するものと考えられている。

これらに先行するのが、助吉地区の石棺群であり、二俣台地の西端に位置する。墳丘は無く、10数基の石棺が一部露出した状態で検出された。昭和63(1988)年の調査では、４～５世紀のものと思われる箱形、舟形、家形の三種、11基の石棺と４体の人骨が検出されている。その他、６～７世紀頃と思われる横穴墓が白木川の左岸の凝灰岩壁に4基確認されている。昭和61(1986)年に実測調査がおこなわれているが、遺物は出土していない。

(4) 古代

稲佐地区において奈良時代末から平安時代中期に存続した廃寺跡が確認されている（熊本県指定史跡稲佐廃寺跡)。地区内の熊野神社の周辺から宇野廉太郎らによって布目瓦が多量に採集されていたが、昭和27年田辺哲夫ら玉名高校考古学部によって測量調査がおこなわれた。昭和46年松本雅明らは神殿の床下に礎石を発見、法起寺式の伽藍配置の寺院が明らかになった。瓦の型式から朝鮮半島との関係性の有無が論じられている。

この他、町内では製鉄関連遺跡が多く確認されている。県下約７割の関連遺跡が玉名・玉東地域に集中しているといわれるが、特に精錬遺跡は玉名の小岱山周辺、大岳周辺、そして玉東町の三ノ岳周辺に集中する。玉東町では古代末～中世初期の製鉄遺跡が10カ所確認されている。その一つ、西原製鉄遺跡は三ノ岳の山麓に位置する遺跡で、昭和54(1979)年の調査によって２基の製鉄炉が検出された。炉が検出されることは珍しく、熊本県指定史跡となっている。

(5) 中世

鎌倉時代には遠江国より下向した相良氏が山北地域を支配したといわれている。その菩提寺として現在は廃寺となっている熊本県指定史跡西安寺跡があり、相良氏の銘が刻まれた三基の五輪の塔群等がある（熊本県指定重要文化財)。調査は昭和38(1963)年に田辺哲夫らによって行われ、廃寺の礎石や瓦等が検出された。また、平成19(2007)年には五輪の塔について再検討が行われている。この五輪の塔の存在が示すように13世紀代には相良氏が山北地域を治めていたことはわかっているが、詳細は未だ不明である。平成22(2010)年度に行った二俣瓜生田官軍砲台跡における調査では二俣台地の東端

において中世期と思われる大溝が確認され、当該地域に於ける山城の存在が明らかになった。

その他、木葉地区では木葉山の南西裾部に位置する丘陵において、掘立柱建物群や堀切を伴う南北朝時代ごろの城跡が確認されている（稲佐城跡）。南北朝時代においては宇都宮氏、戦国時代においては小森田氏の居城であったとの伝承が残っているが詳細は不明である。

(6) 近世

16世紀末より木葉地域は内田手永、山北地域は小田手永に属した。内田手永は「往還筋にあり、交通の便よく、出小屋（出店）が見られるほど」だったという。産業では銅の試掘や石灰焼きが興り、近年まで採掘が行われている。また、木葉焼と称される焼き物が盛んであった。『玉名郡村誌』の明治11年の調査によると、焼物職は12戸もある。特に素焼きの猿（木葉猿）と火鉢が有名であり、猿は「南総里見八犬傳第九輯」にも取り上げられ土産物として珍重されたようである。その他、木葉には旅籠や酒屋、種々雑多な業種があり、宿場町、在郷町として栄えた。

一方、小田手永に属する山北の村々は「田方少く、畑方は山付、段畑かち、地味いたってよろしからず、其上馬通成り難し」とされる。産業は農業が中心で、木葉の在郷町を支える農村集落が形成されていた。

(7) 近現代

幕末から明治維新の動乱期後、明治政府の新体制による政策は例外なく玉東の各地域にも実施された。明治４年廃藩置県等によって旧来の幕藩体制は崩壊し、地租改正等の地方行政制度の改革が次々と行われた。西南戦争開戦前夜の地域の状況を詳細に記す。

西南戦争の開戦直前から戦争中にかけて熊本県下各地で地租改正の費用をめぐる不正などを追及する農民一揆が展開した。県北部の玉名・菊池・山鹿・山本の各郡では１月～２月上旬（参加者約12,000人）、阿蘇郡は２月～３月（8,800）、県南部の上下益城・宇土・八代各郡も２月～３月（9,700）、天草郡では３月末～４月中旬（参加人員不明）にかけて、各地域の諸要求をかかげ、県下約３万人余による農民一揆が展開していた。

県北部では戸長征伐といわれているように、小区の行政責任者である戸長・用掛と農民が対立した。現玉東町域の内、表にみる４町村の一揆参加者の調書が残されている（表10）。

表10 明治10(1877)年１月の一揆参加者数

村名（大区―小区）	A. 戸数（農家数）	B. 一揆参加者	参加率
西安寺村（７－４）	92（ 75）	72	78.3%
上白木村（７－４）	65（ 54）	6	9.2%
原倉村（７－４）	187（147）	144	77.0%
木葉町（７－５）	194（ 42）	66	34.0%

・戸数は『肥後国郡村誌』、一揆参加者は『西南戦争期における農民一揆』による。
・参加率は一戸から一人（男）が普通なのでB/A ×100で算出。
・白木村（129戸、農民101戸）の調書は見当たらないが、上白木村の調書の中に、白木村での集会に植木町在住の広田尚と堀善三郎が出むいて来ていると記されている。

農民たちの主な要求は地租改正費などに対する使途疑惑であり、そのための役場の諸帳簿を写し取り、不正を調査し、戸長・用掛の不正をただした。その交渉の場で、農民は戸長・用掛は皆一つの穴の狐と認識し（倉原村調書）、役人は盗賊強盗と非難攻撃をしていた。県北部で戸長征伐が高揚すると、県は集会禁止の布達をだすと同時に県官や警部・巡査を出張させ説諭にあたらせた。そのため一

揆は２月上旬には鎮まった。

しかし、その後すぐに県北部の一帯は西南戦争の戦火にみまわれた。木葉地区は政府軍の基地の町と化し、現玉東町のその他の地域は家を焼かれ田畑を荒らされる等、多大な被害を受けた。戦後においても遺体の埋葬や被災地の復興等、地域の人々に課せられた負担は重かった。

しかし、その後の産業発展等目覚ましいものがあった。木葉の石灰、山北のみかん栽培は地域の代名詞ともなっている主産業である。石灰焼きは、木葉山の良質な石灰岩を利用したもので、天保年間(1830～1844年)にはすでに行われており明治期から現代に至るまで隆盛を極めた。そして、それらを支えたのが鉄道の開通によるインフラの発達である。現在、町の中心部には国道に並び JR 鹿児島本線が通る。明治22(1889)年に博多・久留米間、24年４月に久留米・高瀬間、７月に高瀬・熊本間が開通した。現在の木葉駅ができたのは、その後の明治25(1892)年４月１日である。当時、木葉地域から産出される石灰、生糸や山北地域や小天地域からのみかんの輸送の為に駅設置の要望が高まり、物流に大きな役割を果たした。

この他、木葉の産業として挙げられるのが蚕糸業である。明治41年に木葉では器械製糸による一瀬製糸工場が創業、昭和17(1942)年に解散し、時を同じくして熊本繭短繊維株式会社が創業した。同工場は昭和19年に熊本繭繊維株式会社木葉工場と社名を変更し、50年以上にわたり操業を続け、地域産業を支えた。

山北地域における果樹の栽培は、明治30(1897)年代頃庭先栽培から始まった。昭和初期には山林を開墾したりんごや梨の産地形成がなされ、昭和11(1936)年みかん栽培の取り組みが「山北村柑橘研究会」（その後「山北村柑橘栽培組合」と改める）の結成により始まった。当初、会員数16人という少数精鋭で「合理的ニ栽培」することを目的に温州みかん、早生温州みかんの栽培が行われていた。この栽培が隆盛期を迎える頃、日中戦争が始まり、５年後に会は消滅する。しかし、栽培自体は継続的に行われ、戦後復興の中で徐々に拡大した。昭和25(1950)年には手開墾による園地拡大がおこなわれ、昭和30年代中から後半には機械を使った大規模な開墾が行われるようになった。こうして生産農家も増大し、玉東町の主産業として今日に至る。

【参考文献】

・熊本市教育委員会　2010『稲佐津留遺跡・西安寺遺跡－九州新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財調査報告』熊本県文化財調査報告第263集
・田辺哲夫　1958『肥後国玉名郡村誌』玉名民報社
・玉東町史編集委員会　1995『玉東町史　通史編』
・玉東町史編集委員会　1995『玉東町史　西南戦争編・資料編』

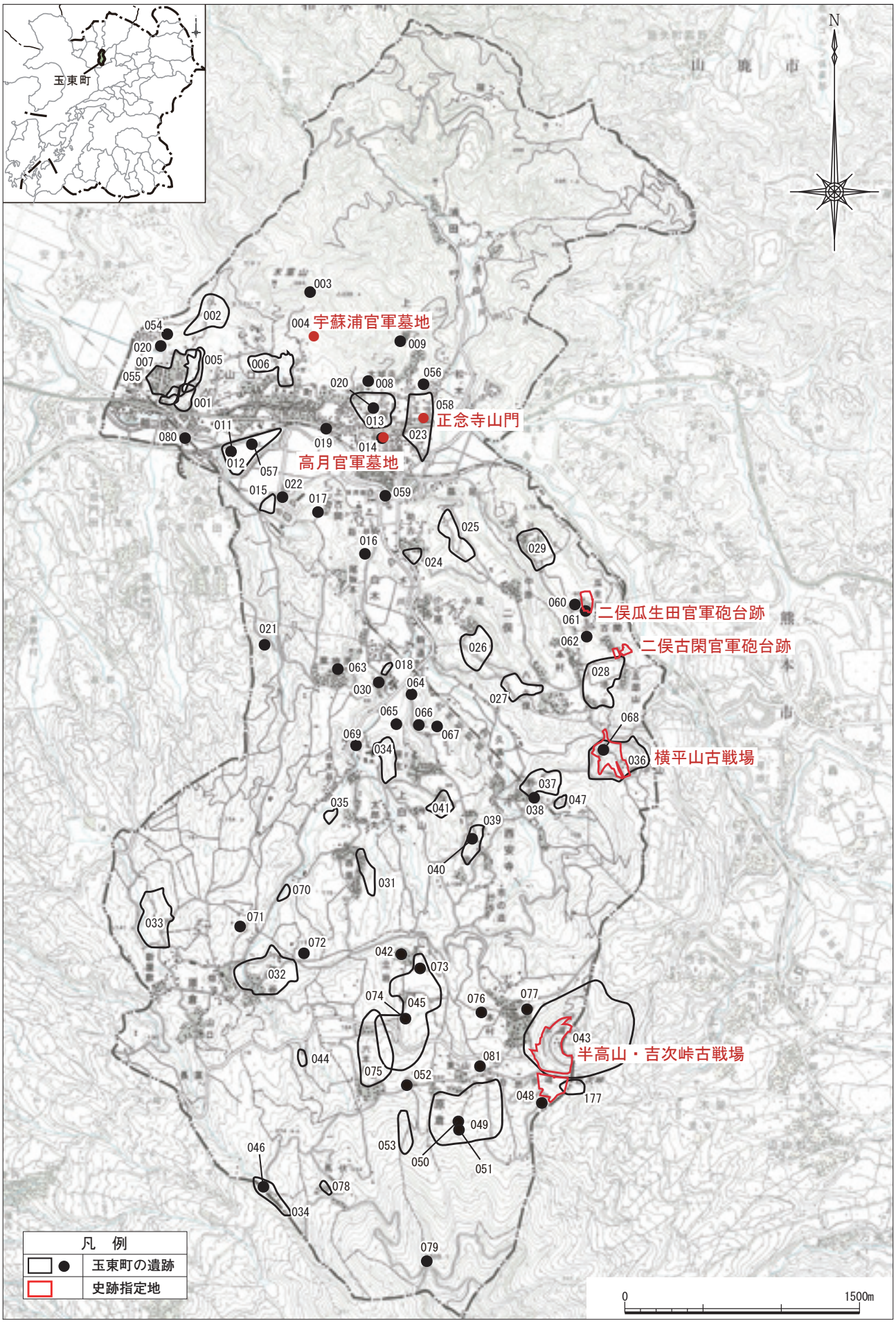


図14 遺跡の位置と環境

表11 玉東町の遺跡

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備　　考
1	稲佐廃寺跡	稲佐　切畑	古代	寺社	県	古代寺院、塔礎石、金堂基壇の一部、布目瓦多量
2	稲佐城跡	稲佐	中世	城		同上地、本丸跡に熊野神を祀る
3	伊形霊雨の墓	木葉　住生松	中世	墓	町	時習館居寮、詩作、国文に長じた
4	宇蘇浦官軍墓地	木葉　宇蘇	近代	墓地	県	谷村計介墓
5	宮の元	稲佐　切畑	弥生～中世	包蔵地		
6	山口	山口　長宗	弥生～中世	包蔵地		
7	立福寺跡	稲佐	中世	寺社		
8	円久寺跡	上木葉	中世	寺社		
9	大城寺跡	上木葉	中世	寺社		
10	稲佐切畑	稲佐　切畑	弥生	包蔵地		熊野神社全域、弥生土器片多量
11	窪田越前塚	木葉　久保田	古墳	古墳		墳丘上に箱式石棺の一部露出
12	町下	木葉　町下	古代・中世	包蔵地		青磁・土師器・須恵器・瓦器破片
13	木葉宇都宮城跡	木葉　丸田	中世	城		小森田城跡、役場裏手
14	高月官軍墓地	木葉　高月	近代	墓地	県	
15	音丸	白木　上古閑	弥生・古墳	包蔵地		弥生土器・土師器
16	箱井古墳	白木　箱井	古墳	古墳		高台上小円墳、石材露出する
17	上古閑古墳	白木　上古閑	古墳	古墳		箱型、蓋入母屋の石棺
18	二郎丸横穴群	白木　二郎丸	古墳	古墳		２基
19	揚の六地蔵	木葉　前田	中世	石造物		銘があるが風化し、不詳
20	有栖川宮督戦地	木葉　丸田	近代	軍事	町	碑あり
21	白木柏軒の墓	白木　口の坪	近世	墓		
22	世尊時跡	木葉　世尊時	中世	寺社		真言宗、寺号築地蓮華院に移す
23	土生野	木葉　土生野	古墳	包蔵地		部落内に須恵器・土師器を包含する
23	土生野	木葉　土生野	縄文～古代	包蔵地		須恵器・土師器
24	助吉古墳	二俣　助吉	古墳	古墳		封土を失い、石材堆積
25	陣林	二俣　陣林	縄文～古代	包蔵地		
26	堂の元	二俣　堂の元	縄文～古代	包蔵地		
27	京塚	二俣　京塚	縄文～古代	包蔵地		
28	前久保古墳碑群	二俣　前久保ほか	中世	石造物		
29	辻	二俣　辻	縄文後晩期	包蔵地		
30	小清水横穴	白木　小清水	古墳	古墳		風化深い、２基
31	西原製鉄跡	原倉　西原	古代	生産	県	鉱滓・焼灰あり
32	原倉	原倉　畑ほか	弥生	包蔵地		弥生土器・石器
33	原倉西	原倉　建が迫ほか	古墳	包蔵地		須恵器
34	城山城跡	上白木　城山ほか	中世	城		山北小学校一帯
35	太郎丸権現山	上白木　太郎丸	古代	生産		スラッグ・ふいごの羽口
36	横平山戦跡	二俣　中道ほか	近代	戦跡	町	西南役、濠跡、記念碑あり
37	西安寺	西安寺　上の原ほか	弥生末	包蔵地		土師器・須恵器片・住居跡
38	久満坊埋蔵銭出土地	西安寺　吉丸	古代・中世	包蔵地		中国唐～明479個
39	西安寺跡	西安寺　寺中尾ほか	中世	寺社	県	礎石・排水溝
40	西安寺五輪塔群付板碑群	西安寺　寺中尾	中世	石造物	県	相良氏五輪塔　外、板碑
41	座主古塔碑群	上白木　座主	中世	石造物		笠塔婆・五輪塔
42	立岩石器製作	原倉　立岩屋敷	縄文	生産		石斧・剥片多数
43	半高山戦跡	原倉　半高	近代	戦跡		
44	釜の口製鉄跡	原倉　山口原	古代・中世	生産		鉱滓多数散布・ふいごの羽口、焼土
45	東山西	原倉　荒平	縄文～弥生	包蔵地		縄文後晩期御領式、弥生
46	金糞谷製鉄跡	原倉　藤原	古代・中世	生産		
47	西安寺製鉄	西安寺　寺中尾	古代	生産		スラッグ
48	吉次峠戦跡	原倉　荒強当	近代	戦跡	町	西南役、佐々軍駐屯地、谷村計介捕まる
49	東山	原倉　荒強当	縄文	包蔵地		縄文後期の土器・石器含包
50	むくろじ製鉄跡	原倉　荒強当	古代	生産	町	鉱滓・羽口多量
51	むくろじかじ墓群	原倉　荒強当	古代	墳墓		山林中にいくつもの小墳丘点在
52	篠原国幹戦没地	原倉　大谷	近代	緑地		石標柱、薩軍武将、明治10年３月４日戦死
53	大谷石器製作	原倉　大谷	縄文	生産	町	安山岩石器多量出土
54	寺山板碑	稲佐　寺口	中世	石造物		
55	ガランさん板碑	稲佐　馬場屋敷	中世	石造物		
56	官軍本営跡	木葉　部田見	近代	戦跡		
57	天神山古墳	木葉　町下	古墳	古墳		
58	官軍病院跡	木葉　土生野	近代	包蔵地		
59	眼鑑橋跡	二俣　鍛冶場	近世	包蔵地		
60	歯吹如来	二俣　北原		建造物		
61	官軍砲台跡	二俣　瓜生田	近代	戦跡		
62	官軍本営出張所	二俣　瓜生田	近代	戦跡		
63	山北八幡宮仁王像	白木　栗地原	中世	建造物	町	
64	阿蘇火砕流埋没炭化木出土地	上白木　小林		記念物		
65	阿蘇火砕流埋没炭化木出土地	上白木　黒牟田		記念物		
66	即身成仏の碑	上白木　小林	中世	石造物		
67	弾痕の家	上白木　小林	近代	建造物		
68	薩軍仮埋葬地	二俣　峠	近代	墓地		
69	眼鑑橋跡	上白木　鐘丸	近代	包蔵地		
70	清田原製鉄	原倉　清田原	古代・中世	生産		
71	官軍砲台跡	原倉　七ツ松	近代	軍事		
72	道標（追分石）	原倉　清田原	近世	石造物		
73	薩軍砲台跡	原倉　立岩原	近代	戦跡		
74	菖浦谷製鉄所跡	荒平	古代	生産		
75	六本楠	原倉	縄文	包蔵地		
76	原倉清田氏板碑群	原倉　登立	中世	建造物	町	
77	原倉清田氏五輪塔	原倉　尾池	中世	建造物	町	
78	馬伏製鉄	原倉　馬伏	古代	生産		
79	官軍砲台跡	原倉　大谷	近代	戦跡		
80	乃木少佐奮戦の地	稲佐　平迫	近代	軍事		

・熊本県教育委員会編『熊本県遺跡地図』より

表12 玉東町の指定文化財一覧

No.	区　分	種別１	種別２	名　　称		所在地
1	国	史跡		西南戦争遺跡	吉次峠戦跡	原倉
					横平山戦跡	二俣
					二俣瓜生田官軍砲台跡	二俣
					二俣古閑官軍砲台跡	二俣
					高月官軍墓地	木葉
					宇蘇浦官軍墓地	木葉
					正念寺	木葉
2	県	重要文化財	建造物	西安寺五輪塔群付板碑群等		西安寺
3	県	史跡		西安寺跡		西安寺
4	県	史跡		稲佐廃寺跡		稲佐字切畑
5	県	史跡		西原製鉄所跡		原倉字東原
6	町	有形文化財	建造物	山北八幡宮仁王像		白木
7	町	有形文化財	建造物	原倉清田氏五輪塔附板碑群		原倉字本村
8	町	有形文化財	工芸品	西安寺瓦		西安寺
9	町	有形文化財	工芸品	稲佐廃寺瓦		稲佐
10	町	有形文化財	古文書	窪田家古文書		木葉字横町
11	町	史跡		伊形霊雨の墓		木葉字段
12	町	史跡		大谷石器製造所跡		原倉字大谷
13	町	史跡		むくろじ製鉄所跡		原倉字荒強当
14	町	史跡		有栖川宮督戦の地		木葉字丸田
15	町	天然記念物		榔群		稲佐
16	町	天然記念物		楠		木葉
17	町	天然記念物		一位樫		原倉

（平成28年３月現在）

図15 西安寺五輪塔群